

アジア・アフリカにおける分野横断的・通地域的問題発見型インターンシップ・プログラムを実施しました。（2020年1月7日～1月17日）

アジア・アフリカ地域研究研究科は、「アジア・アフリカにおける分野横断的・通地域的問題発見型インターンシップ・プログラム」を実施し、プログラムには、チェンマイ大学社会科学部、ポゴール農業大学生態人類学部、ベトナム国家大学ハノイ校人類学部、アジス・アベバ大学社会人類学部、マニプル大学地域開発研究センター、ジャワーハルルール・ネルー大学経済学部からそれぞれ1名ずつ、計6名の短期交流学生を招き、本学の学生8名と教職員7名が参加しました。このプログラムはワイルド&ワイズ共学教育受入れプログラム事業の一環として実施されました。

短期留学生交流学生はプログラム期間中、本学の大学院生たちと親密に交流しながら、熊本県の水俣や京都におけるフィールドワークで日本の社会やの文化に触れました。なかでもとくに印象的だったのは、学生たちが水俣の旅行をとおして環境の汚染や劣化からの復興を分野横断的・通地域的な問題として捉えるようになったことであり、その意義は非常に大きいと感じました。

本プログラムでは、アジア・アフリカ地域研究研究科附属次世代型アジア・アフリカ教育研究センターが開催した「Wild & Wise International Workshop “Perspectives on Next-generation Area Studies”」に参加し、日本人学生と短期交流学生の双方が幅広い内容について英語で議論し、国際的な場での研究発信能力の向上に努めました。

関連リンク

ワイルド&ワイズ共学教育受入れプログラム事業（令和元年度実施）

URL：http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/global_bridge/course_01/wild_wise/index.html



水俣駅前でのグループ写真



水俣でのフィールドワーク



水俣の漁師さんに話を伺う



京都大学でのワークショップで発表



ワークショップ後のフリートーク



ワークショップ参加者のグループ写真